

SCOAP³への参加について

目次

1	参加の意義・メリット.....	p.1
2	参加手続き.....	p.2
3	拠出額.....	p.2
4	Reconciliation.....	p.3
5	MoU (Memorandum of Understanding)...	p.7
6	支払いについて.....	p.8

1 参加の意義・メリット

SCOAP³ (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics) は、高エネルギー物理学分野 (High Energy Physics : HEP) の査読付きジャーナル論文のオープンアクセス化を実現することを目的とした、国際連携プロジェクトです。

出版社	SCOAP ³ 対象タイトル	HEP 論文割合
Elsevier	Physics Letters B	100%
	Nuclear Physics B	100%
Hindawi	Advances in High Energy Physics	100%
Institute of Physics Publishing	Chinese Physics C	7.2%
Institute of Physics Publishing	Journal of Cosmology and Astroparticle Physics	30.9%
Institute of Physics Publishing	New Journal of Physics	2.7%
Jagellonian University	Acta Physica Polonica B	22.1%
Oxford University Press /Physical Society of Japan	Progress of Theoretical and Experimental Physics	36.2%
Springer	European Physical Journal C	100%
Springer	Journal of High Energy Physics	100%

SCOAP³のビジネスモデルは、大学等の図書館が従来「購読料」として支払っていたものを対象雑誌の「出版料」に振替えることで、世界中の誰もが無料でそれらの学術雑誌の論文を読むことができるようにすることを目指すものです。

高エネルギー物理学という特定の分野を対象にしていますが、その仕組みは今後のオープンアクセス推進に多大な影響を与えるものであり、その成否は世界的かつ出版社、研究者等の全ての関係者から注視されています。

日本は、例えば国立大学図書館協会の声明 (『オープンアクセスに関する声明～新しい学術

情報流通を目指して～』平成 21 年 3 月 16 日 http://www.janul.jp/j/operations/requests/statement_09_03_16.pdf) が示すように、オープンアクセスについて比較的理解が進んでいる国の一つですが、SCOAP³に参加することでオープンアクセス推進に更なる貢献を果たすことになり、大きな意義があります。

SCOAP³に参加すると、参加機関は SCOAP³のパートナーとなります。パートナーになると以下のようなメリットがあります。

- ・コスト削減（拠出額に見合った額を購読契約金額から差し引くことについて、出版社の確約を得ることができる）

SCOAP³に参加しなければ、出版社が図書館との契約において確かにその分削減したのかどうか分かりません。例えば、対象誌の購読が電子ジャーナルパッケージの中に組み込まれている場合、対象誌分が外れることにより削減される金額を出版社が提示します。図書館側も既定の計算式に従って期待される削減額を求め、両者の調整（Reconciliation）を行います。このため、SCOAP³に参加しないとその後出版社から提示されるパッケージ価格の妥当性が分からないことになります。

- ・SCOAP³のガバナンスへ参加することができる
- ・CERN が構築する SCOAP³リポジトリへの自機関研究者の論文登録、及び SCOAP³リポジトリから自機関リポジトリへ論文を取り込むことが可能となる

2 参加手続き

各機関は、SCOAP³への参加意向を本調査で表明すると、パートナー候補者となります。パートナー候補者とその拠出額（後述）は、NII（日本における National Contact Point）にて取りまとめた上で、CERN に報告します。後日、CERN から届いた MoU（後述）を締結すると正式にパートナーとなります。

スケジュールは以下の通りとなります。

平成 25 年	
2 月	パートナー候補者報告（NII→CERN）
3 月～11 月	Reconciliation（後述）
12 月	MoU（CERN : NII）
平成 26 年	
1 月 1 日	SCOAP ³ 開始
1 月～4 月	パートナー追加申請
4 月～	インボイス（CERN→NII）到着後支払い（NII→CERN） 参加機関拠出額請求（NII→参加機関）

3 拠出額

拠出額は、SCOAP³対象誌をオープンアクセス誌にするための原資に使われます。即ち、大学等の図書館が従来「購読料」として支払っていたものを対象雑誌の「出版料」に振替える、ということです。

各参加機関の拠出額は、電子ジャーナル購読状況を元に、出版社との調整（Reconciliation）を経て確定します。CERN は各国からの拠出額を取りまとめ、オープンアクセス誌にするため

の原資として出版社へ支払います。

出版社は、オープンアクセス誌にしたタイトルについては、凡そその購読額分（削減額）を各参加機関の契約額から削減する義務を負います。

また、SCOAP³という事業は 2014～2016 年の 3 年間実施されますので、**2013～2015 年の 3 年間、毎年拠出額を支払うことになります。**

（参考）拠出額算出の例

例 1

高エネルギー物理学分野 Journal of A の購読額＝10,000 円

Journal of A を含むパッケージ B の契約額＝100,000 円

ある参加機関の状況が上記の場合、拠出額は 10,000 円となり、ある参加機関と出版社の間の、パッケージ B の契約額は 90,000 円となる。

例 2

物理学分野 Journal of C の購読額＝10,000 円

Journal of C が高エネルギー物理学分野の論文を含む割合＝20%

Journal of C を含むパッケージ D の契約額＝100,000 円

ある参加機関の状況が上記の場合、拠出額は 2,000 円となり、ある参加機関と出版社の間の、パッケージ B の契約額は 98,000 円となる。

※1 上記例では、算出の原則的な考え方を示しています。実際には、購読方法に応じた削減額を算出し、Reconciliation を行った上で、拠出額を確定させていきます。そのため、購読額＝確定した拠出額とならない場合もあります。

※2 SCOAP³対象誌が高エネルギー物理学論文を含む割合は、過去の実績より算定しています。以下のサイトをご参照ください。

<http://www.nii.ac.jp/sparc/scoap3/>

<http://scoap3.org/>

4 Reconciliation

Reconciliation とは、図書館/コンソーシアムと出版者との間で、拠出額と削減額の調整を行う一連の作業です。日本の場合は、この作業を NII が行います。

手順は以下の通りです。

- (1) SCOAP³へ参加する機関が、SCOAP³タスクフォース事務局が用意する計算ツール（エクセル表）を使って拠出額（購読額）を算出
- (2) NII が、参加機関の拠出額データを集約し、Reconciliation Facility（ウェブサイト）にデータをアップロード
- (3) 一方、出版社も削減額を Reconciliation Facility に入力
- (4) CERN は一連のプロセスを監視し、額の不一致が生じた場合それを調停
- (5) 最終的に合意された額は MoU に明記され、出版社はその額を参加機関の契約額から

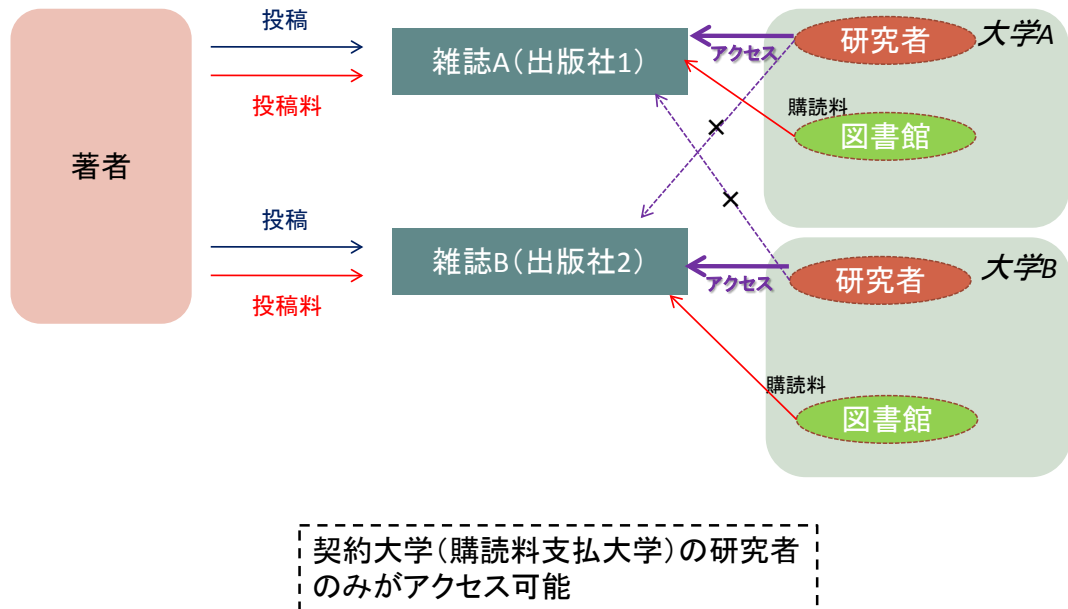
削減する義務を負う

詳細は以下のサイトもご覧ください。

<http://www.nii.ac.jp/sparc/scoap3/>

従来のモデル

1



SCOAP³によるモデル

2

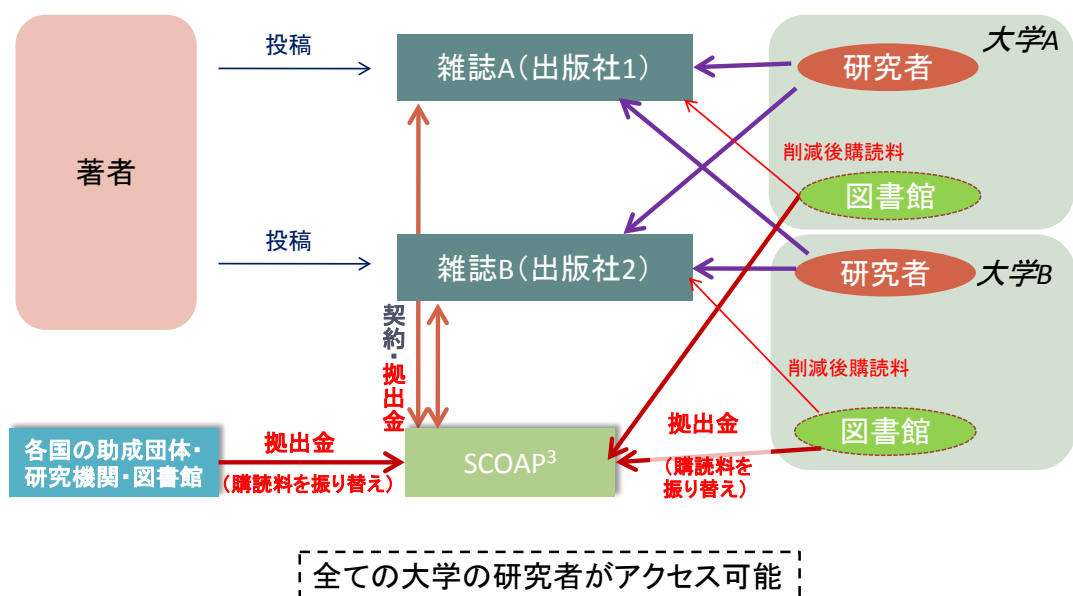


図1 従来モデルと SCOAP³によるモデル

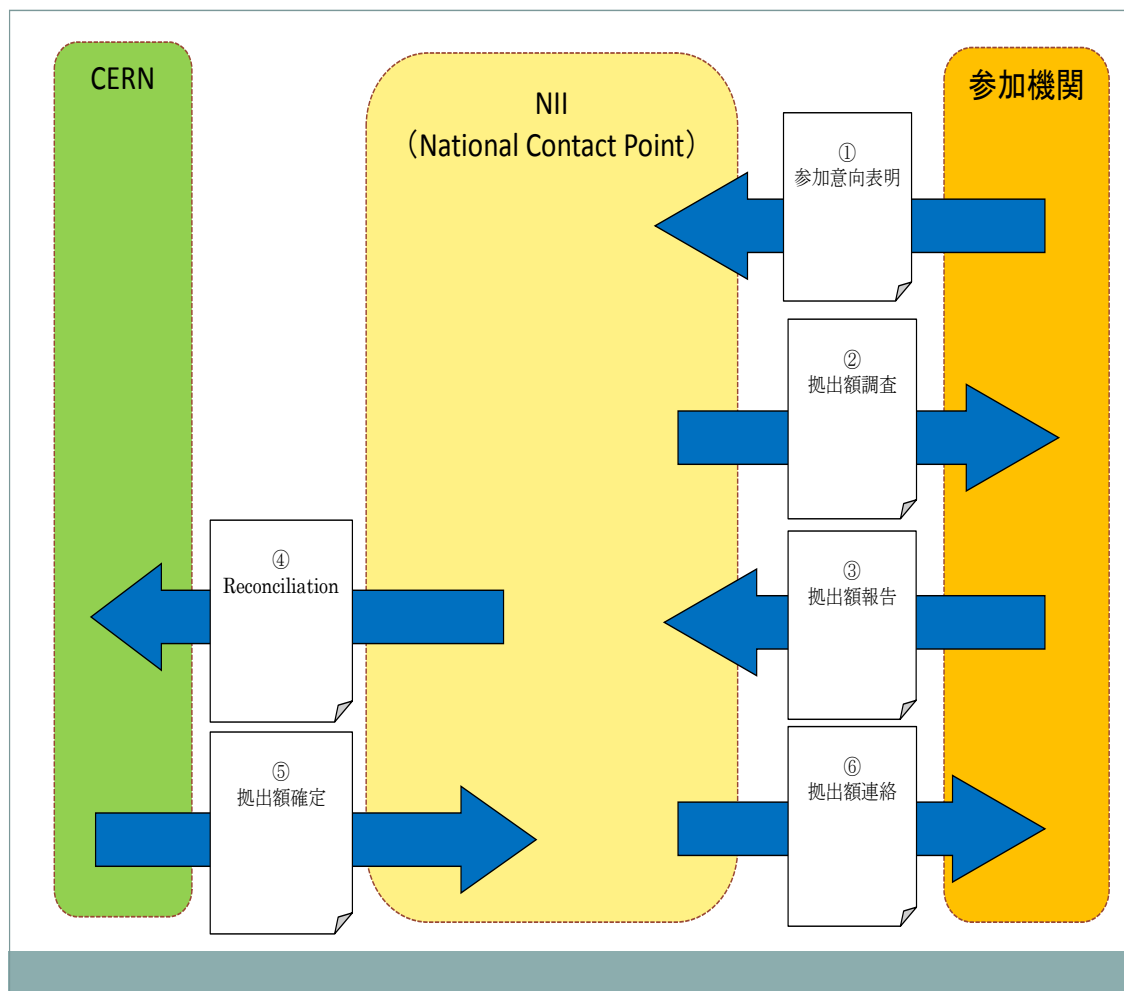


図2 拠出額確定までのプロセス

5 MoU (Memorandum of Understanding)

MoU とは協定書を意味します。SCOAP³では、CERN と参加機関の間で MoU を締結しますが、日本の場合、日本の参加機関を代表して NII が CERN と MoU を締結します。

この MoU の締結により、参加機関や拠出額が正式に確定します。以後は、この MoU を根拠として、拠出額の請求や支払いが行われることになります。

なお、各機関では、MoU に署名するといった作業は発生いたしません。後日、参加機関に締結した MoU の写しを送付いたしますので、それをご確認いただくことになります。

MoU は以下のような構成となっています。本文では、SCOAP³のガバナンスや財務、参加機関の権利、CERN の役割等について記述されています。Addendum では、日本の SCOAP³ 参加機関の一覧や削減額が記述されます。

1 本文(Memorandum of Understanding for the establishment and operation of the SCOAP³)

Preamble

Clause 1: Parties

Clause 2: The MoU and its purpose

Clause 3: SCOAP³ Governance

Clause 4: Finances

Clause 5: Rights of the SCOAP³ Partners

Clause 6: Use of resources

Clause 7: Role of CERN as Host Organization

Clause 8: Duration

Clause 9: Disputes

Clause 10: Major amendments

Clause 11: Implementation of the MoU

2 付録

Annex 1 The Parties to the MoU

Annex 2 The SCOAP³ Partners

Annex 3 List of Publishers and Journals

Annex 4 Form of Contract with Publishers

Annex 5 Technical specification

Annex 6 Expanded list of shares of HEP literature by country

Annex 7 Template Expression of Interest

Annex 8 SCOAP³ Working Party Report

3 本文に係る署名 (CERN と代表機関)

4 Addendum (日本の SCOAP³参加機関一覧)

5 Addendum に係る署名 (CERN と代表機関)

6 支払いについて

拠出額の支払いは以下のような手順で行われる予定です。

- 1) 平成 26 年 4 月以降に、CERN から NII にインボイス（ユーロ建て）が届く。
- 2) NII から CERN に支払う。
- 3) NII から各参加機関に請求書（円建て）が届く。
- 4) 各参加機関から NII に支払う。

上記の通り、

- ① 日本の拠出額は NII が取りまとめて CERN に支払う、
 - ② 一時的に NII が各参加機関の拠出額を立て替えて CERN に支払う、
 - ③ 為替リスクは NII が負う、
- ということになります。

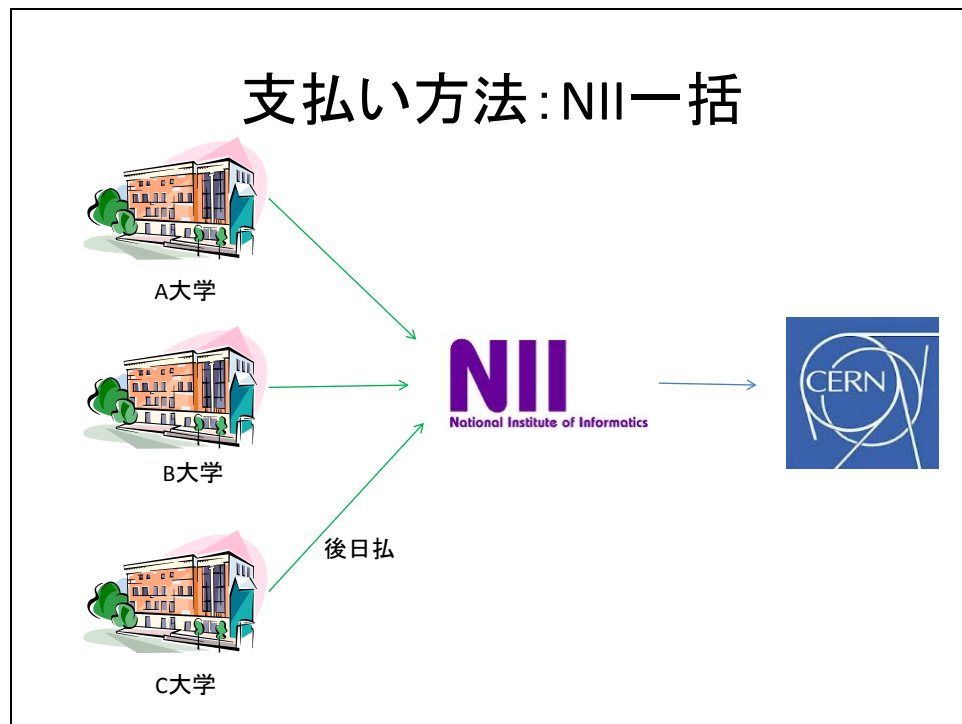


図3 支払い方法

2014年のSCOAP³拠出金について

- ◆2014年～2016年、SCOAP³参加館の拠出金をNIIがとりまとめて一括で支払う(各年1回)
✓SCOAP³の計画は2014～2016の3力年である。

◆ワークフロー(予定)

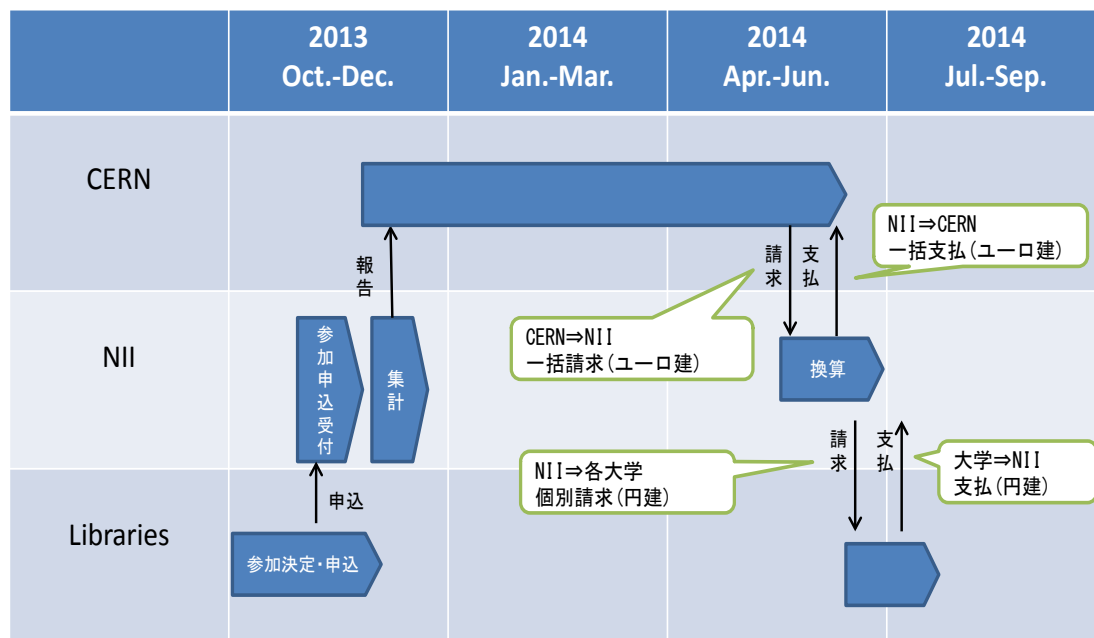


図4 2014年のSCOAP³拠出金についてーワークフロー(予定)